

1 自己評価及び外部評価票

【 事業所概要(事業所記入) 】

事業所番号	2072501204		
法人名	有限会社大島		
事業所名	グループホームいきいき		
所在地	長野県下伊那郡松川町元大島5274-22		
自己評価作成日	令和4年2月16日	評価結果市町村受理日	令和4年7月27日

※事業所の基本情報は、公表センターで閲覧してください(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/20/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2072501204-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【 評価機関概要(評価機関記入) 】

評価機関名	非営利活動法人 福祉総合評価機構 長野県事務所
所在地	長野県飯田市東中央通5丁目59番地1
訪問調査日	令和4年3月29日

【 事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入) 】

<p>○ コロナ禍の中でも感染症対策を行い、外出(主にドライブや散歩)が日課となるようにしている。</p> <p>○ 面会制限でもご家族との交流を積極的に行えるようにタブレットを導入し、ビデオ通話が円滑に行えるようにヘッドフォンを使用している。また、写真や動画もご家族に送っている。</p> <p>○ 食事はタンパク質を多めにして、栄養も十分で、美味しいと好評である。ご利用者の体重にもよるが、ご希望があればおかわりをしていただける環境を整えており、毎食職員が声掛けをしている。食事形態も個別対応を徹底している。毎月の職員会で食事内容や形態を確認している。</p>
--

【 外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入) 】

<p>コロナ禍のため、地域との交流が中止になり、楽しみにしている外出や家族との面会も制限されつつある中、グループホーム独自でできることを工夫している。例えば、感染症対策の短期大学の実習を受け入れたり、デイサービスの利用者の送迎に同乗してドライブを計画したり、広い敷地内での散歩を続けたり、タブレットでのビデオ通話での面会を実施したりしている。</p> <p>また、コロナ対策として、非接触型の体温測定機や手指消毒器、加湿器や温度計、そして自動水栓を整備するだけでなく、カラオケの新機種を導入したり、食事の形態や内等を工夫したりして、楽しくグループホーム内で過ごせるようにしている。</p> <p>経営者や管理者と職員とが一体となって利用者の精神的なケアまで進めていることが素晴らしい。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。ユニットが複数ある場合は、ユニットごとに作成してください。

ユニット名()		項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目：30, 31)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

※「自己評価の実施状況(太枠囲み部分)」に記入をお願いします。〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「利用者の皆様と共に暮らしを上げます」という理念と、「地域の中で地域の皆様と暮らします」という二つの理念について、職員会で研修をしている。	職員が心がけねばならない認知症の理解や身体拘束をしないケアの実践について、研修を繰り返し行い、実践につなげるように努めている。また、電話での対応など接遇についての研修が十分でない点があるので、引き続き進めていきたい。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍前は年間行事に位置付けていた「ふれあい広場」「夏祭り」「どんど焼き」「節分」「中学生や高校生の福祉体験」「地域ボランティアの活動」などに積極的に参加できていたが、本年度は参加できていない。	ほとんどの地域との関係行事は取りやめになったが、感染症対策の一環として短期大学生の実習を一週間行い、実績をあげてきた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍のためできなかったが、短期大学生の実習を引き受けてきた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町の担当者とも話し合い、コロナ禍の間の運営推進委員会の開催については柔軟に対応してきている。家族からドライブの回数など外出についての要望があり、検討してきた。	コロナ禍のため、運営推進委員会の開催が延期や中止になり、十分な話し合いができなかった。そのため、町の担当者やその他の運営推進委員と書類などで連絡を取り合い、進めてきた。	コロナ禍の間の運営推進会議の在り方を検討し、書類などを工夫して、運営推進会議の意見や要望などが十分反映できるようにしていきたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナ禍の中、町の担当者からもっと家族との面会を増やしてほしいという要望があったが、町にクラスターが発生していて、グループホーム内での対応に苦慮した。また、グループホームの食事がとてもおいしいということなど、実情や特徴を伝えていく必要があると痛感している。	コロナ禍のため、町からの補助で新しく自動水栓に取り換えることができた。また、県から補助が出ることを聞き、非接触型の体温測定器や手指消毒器を備えることができた。このようにコロナ禍の間でも町の担当者と密に連絡を取り合い対応してきている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の中で一人、着床時にベッドからの転落防止のため四点柵を設置して、安全性を考えた対応を継続している。	身体拘束についてのマニュアルを備え、四点柵を使用するケアを行っている例では、絶えず見守り、職員会でのカンファレンスで検討しているが、現在のところ改善が見えない状態である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「高齢者虐待防止の基本」を資料に、職員会でポイントを押さえて話し合っている。特に、水分制限など、分かりやすい事例を通して検討している。		

グループホーム いきいき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度に該当する利用者は現在いない。権利擁護の研修会に参加していないが、不明な点は町の担当者に相談している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	個々に契約内容について説明して納得してもらうようにしている。特に、集団生活に適應できるか、認知症の状態はどうかなどをポイントにして話し合い、グループホームでできることを知らせている。1日3名のデイサービスの利用者には契約は地域のケアマネージャーに依頼している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍のためご家族から直接聞くことはできなかったが、電話等で意見や要望を聞くようにしている。	コロナ禍のため面会ができなくなり、家族から本人の顔を見たい、声を聞きたいと言う要望から、昨年の秋に補助金を利用してタブレットを導入した。ビデオ通話ができ、ラインもできて好評である。また、利用者の家をドライブで回ってほしい、と言う要望もあり、適時対応してきている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会では運営者や管理者、リーダーを交えた話し合いを行っている。朝や夕方の打ち合わせには、ケアについてなどの意見交換をしている。	職員とは管理者、リーダー、運営者と四者で個別に話し合う機会を設け、職員の特技を活かしたり、利用者との交流を進めたりする運営やケアについて検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月1回以上定期的に職員と個別に話し合い、特に希望勤務について検討している。管理者は職員の希望をなるべく受け入れて対応するように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は研修計画を立てて実施している。しかし、コロナ禍のため外部研修を受ける機会が少なく、職員だれでもが研修会に参加できる機会が増えるとよいと考える。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修会に参加した際に、他のグループホームとの意見交換をしている。また、コロナ禍のため少なくなったが、同法人内のグループホームとは交流を継続している。		

グループホーム いきいき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前、入居後の面接で、どのように暮らしたいか、ご本人の要望に沿えるような初期の介護計画をたてるように努めている。また、状況提供書を基にフェイスシートを作成し、その後のケアに活かすようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	最初の面談で、ご家族の意見や要望に応えられるよう努力している。また、緊急時の対応や終末期のケアなどについての必要事項を伝え、関係づくりに努めるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	新規ご利用者との対応で、看護師の職員や調理担当の職員、デイサービスの送迎員との連携について説明し、理解していただくようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者とのふだんの会話や行動からご本人が持っている能力(パッチワーク、習字、裁縫、歌集作りなど)を引き出せるように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	タブレットによるビデオ通話やラインでご家族と連絡を取りながら、ご利用者に合ったケアを心がけている。また、毎月「いきいき便り」や手紙や写真などを送り、ご家族との関係づくりに努めている。ワクチン接種については連携を十分取りながら行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	県のコロナ状況を元に、ご家族との面会を制限している中でも、電話での対応を続けてきた。	コロナ禍のため、面会に来る人が少なくなったり、外出して会うことができなくなったりしている。タブレットを使ったビデオ通話やラインにより、ご家族等とが面談できるように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が、ご利用者同士の間を取り持ち、関わり合えるように支援している。一緒に行動する中で相手を認め合うように努めている。		

グループホーム いきいき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでご利用者が医療のため入院しなければいけない場合でも連絡を取り合いながら、ご利用者のさらなる支援が続けられるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話ができる方は、ご本人から聞き取りをし、困難な方は、生活歴から読み取り、ご利用者本位の視点から理解するように努めている。	利用者とのふだんの会話や利用者の行動を個人の「ケース記録」に記録している。その記録は文字の色で、黒は利用者職員、赤は家族、青は医療関係、緑は町関係とに分けて記入し、様々な方向から利用者の意向をとらえようとしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前の情報を職員で共有し、ご本人に合った生活のリズムで対応できるように努めている。例えば、生活環境の変化によって起きる昼夜逆転者や夕暮症候群、帰宅願望者など、ご本人に合わせた対応を検討している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日ご利用者のバイタルチェックを行い、心身の状態を職員同士で話し合い、情報を共有してすぐ対応できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議では、ご本人とご家族からの意見を聞き、介護計画を作成している。	利用者個人の「ケース記録」を基に、担当職員が「ケアプラン実施状況及び評価」に記入し、カンファレンスやケース検討会議で全職員と話し合い、本人の状況に合った介護計画を作成している。ケアマネージャーが見やすい書式に変更して活用する予定である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者個人の「ケース記録」や職員間の「連絡ノート」を併用し、情報を共有している。職員会で、そのつど介護計画を見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者やご家族の要望に応じて、通院、送迎、買い物などに柔軟に対応している。		

グループホーム いきいき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎年地域への行事(ウォーキング大会など)に参加していたが、コロナ禍のため、参加できなくなってきている。この地域でも「オレンジカフェ」はあるが、参加できていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月1回、かかりつけ医に往診していただいている。緊急時などは必要に応じて受診できるようにしている。	利用者のほとんどの方は事前に問診して、近くのかかりつけ医の月1回の往診を受けている。歯科医には月1回職員が付き添って受診している。緊急時にはかかりつけ医や日赤病院で受診できるように体制を整えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間、看護師の職員との連携ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	コロナ禍のため、退院時での相談が困難な場合があるので、病院のソーシャルワーカーと看護師が電話や書類を通して情報交換を積極的に行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時にご本人やご家族から、終末期のケアについての希望をお聞きして、状況が変わるたびに確認している。	マニュアル沿って、この2年間で2名の看取りを行ってきた。ご家族の要望を聞いて、痰の吸引や点滴などを行うなど職員と共に終末期ケアを実施して、ご家族から感謝された。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	コロナ禍のためこの2年間、急変や事故発生時の備えについての外部研修を受けていない。その代わりに、看護師を中心にして蘇生方法についての学習会を行った。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	コロナ禍のため、消防署の指導の下での避難訓練を行うことができなかったが、グループホーム独自の避難訓練等を、6月と12月に行なってきた。運営推進会議のメンバーに協力をお願いしているが、これも本年度はできていない。	夜勤者による通報訓練や、広い敷地内に移動する避難訓練を定期的に行っている。ふだんから風呂場や台所の電源やボイラーの点検をしたり、災害に備えてヘルメットや非常食や飲料水などを保管している。ハザードマップによれば、土砂災害の危険はなさそうだとのことであった。	

グループホーム いきいき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを守るため場所を変え、ご利用者個々に相談するようにしている。例えば、食事の量が多いとか少ないとかの要望でも、個別に聞き取るようにしている。	利用者本人の意思決定を尊重したケアを目指している。そのことを通して利用者の自立支援に役立つように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員から声掛けして、自己決定ができるような話しかけをしている。具体的な指示でご利用者にとって答えやすい声掛けで、台所仕事をしたいのか、畑仕事をしたいのか、それともパッチワークをしたいのか選ぶことができるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者一人ひとりのペースに合わせて、晴れの日の広い敷地内での散歩や、ディサービスのご利用者と同乗してのドライブをしたり、趣味の時間にしたりして楽しんでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、洋服を選んだり、洗顔して化粧や髭剃りをしたりして身だしなみを整えるように支援している。爪切りなどは職員が定期的に行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者は、職員と一緒に買い出しに行ったり、準備したり、後片付けをしたりして食事を楽しんでいる。特別の日には、お弁当を注文することもある。	食堂でディサービスの利用者と一緒に、2か所に分かれて職員の支援を受けながら食事をしている。普通食3人、粗ミジン2人、極キザミ3人、ペースト1人と利用者それぞれに合わせた食事形態で配食されていて、品数を考えた献立、瀬戸物の食器でおいしく会食していた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者各自に合った食事形態にしている。また、水分摂取量を表にして、十分な量を確保できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを自分でできるご利用者は3人、補助を受けるご利用者は6人で、それぞれご本人に合った支援をしている。夜間は義歯を外し、洗浄するようにしている。		

グループホーム いきいき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックシートに記録して、個別に対応できるようにしている。声をかける時間やパットの大きさ等、カンファレンスでご利用者に合わせた見直しをしている。	食事、排泄、食事と、食の循環を排泄チェックシートで見ながら、声掛けをしている。おむつの利用者が4人、リハビリパンツの利用者が2人、布パンツの利用者が3人いるので、それぞれに合った自立支援を行っている	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	かかりつけ医と相談して、定期的な排便コントロールをしている(三日ごとに浣腸するなど)ご利用者が4人いる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご希望の入浴スタイルや希望の時間に入浴できるように個別に話し合っている。	1週間に2回入浴できるようにしているが、希望を活かして4回入浴する利用者や、夜間に入浴する利用者もいる。自立しているの見守りだけで入浴できる利用者は2人、一部介助で入浴する利用者は1人、全介助でリフト浴をする利用者が6人で、それぞれに合った入浴を楽しむことができるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者の様子を見て。声掛けして居室で安眠してもらったり、居間で昼寝をしてもらったりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬については、職員が薬手帳を見て、ご家族に説明している。そして、誤薬がないようにチェック表に記入し、ダブルチェックを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お茶を飲んだ後、歌を歌ったり、台所仕事をしたり、手芸をしたりして楽しんでいる。カラオケの新機種を導入したので、歌を楽しみにしている利用者が多い。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物に出かけたり、敷地内を散歩したり、デイサービスの利用者と同乗してドライブに出かけたりしている。ドライブの順番表を作成し、全員がドライブに出かけられるようにしている。	利用者と一緒に店内まで食事の買い出しに出かけたり、晴れの日には広い敷地内を1日1回は散歩に出かけたり、玄関にカーポートを新設したので、雨の日でも同乗してドライブに出かけたりして、コロナ禍の中でも工夫して外出ができるようにしている。	

グループホーム いきいき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどご利用者はお金を所持していないが、所持しているご利用者には、お金の使用についてご家族と相談している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	タブレット導入してビデオ通話をし、ご家族との連絡や会話ができるようにしている。またラインを利用できるご家族が多数いるので活用している。ご利用者の中には、携帯電話やスマートホンを持って利用している方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者手作りのパッチワークを飾ったり、季節の花を飾ったりして居心地のよい共用空間を作るようにしている。	玄関に回転いすを設置して利用者が座って靴を履けるようにしたり、雨の日でも外出が楽にできるようにカーポートを新設したりして便利になっている。また、コロナ対策のため、非接触型の体温測定器機を1台、同じく手指消毒器を3台、加湿器を4台置いて、きめ細かく対応できるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	コロナ対策のため、テーブルやソファの位置を変え、背中合わせに座るように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人、ご家族の意向で家具の配置を工夫している。	居室は床暖房があり、エアコンも設置している。コロナ対策のため、居室には温度計や湿度計を備え、また、身の回りの物を消毒シートで拭き取るようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	見守りなどが必要なご利用者には、声掛けをして対応できるようにしている。四点柵のベッドを使用しているご利用者の居室にはセンサーマットを備え、安全を期している。		